第２章

産業連関表からみた県経済の構造

# １ 県 内 生 産 額

平成 23 年に県内の各産業で生産された財・サービスの総額（県内生産額）は 7 兆 6,110 億円で、平成 17 年に比べ 1,111 億円増加した。これを伸び率でみると 1.5％のプラスとなっている。

図２－１ 県内生産額の推移

(億円) 120,000

23.0

県内生産額

伸び率(右軸)

77,136

78,789

81,876

74,999

76,110

66,239

1.5

 2.1

-8.4

16.5

(％) 30.0

105,000 25.0

90,000 20.0

75,000 15.0

60,000 10.0

45,000 5.0

30,000 0.0

15,000 -5.0

0

平成2年 7年 12年 平成12年 17年 23年

-10.0

（自家輸送部門なし・社会資本等減耗分含まず） （自家輸送部門特掲・社会資本等減耗分含む）

表２－１ 県内生産額の推移

|  |
| --- |
| 県内生産額（億円） |
| （参考）自家輸送部門なし・社会資本等減耗分含まず | 自家輸送部門特掲・社会資本等減耗分含む |
| 平成2年 | 7年 | 12年 | 平成12年 | 17年 | 23年 |
| 66,239 | 77,136 | 78,789 | 81,876 | 74,999 | 76,110 |

|  |
| --- |
| 伸び率（％） |
| （参考）自家輸送部門なし・社会資本等減耗分含まず | 自家輸送部門特掲・社会資本等減耗分含む |
| 昭和60年→平成2年 | 2年→7年 | 7年→12年 | 7年→12年 | 12年→17年 | 17年→23年 |
| 23.0 | 16.5 | 2.1 | － | -8.4 | 1.5 |

※平成 17 年表から自家輸送（自部門で賄う輸送活動）を部門として新たに特掲するとともに、「1993 年国民経済計算体系（93ＳＮＡ）」への対応を図るため、従来、資本減耗計算を行っていなかった道 路・ダム等の社会資本に関しても資本減耗の計算を行い、その費用（社会資本等減耗分）に関しても部門を設定し計上することとした。これらに伴い、平成 12 年表も同様の方法により県内生産額を算定したうえで、比較を行っている。

用語の解説

県内生産額

県内に所在する事業所の生産活動によって生み出された財・サービスの額をいう。

# ２ 産業別県内生産額

平成23 年の県内生産額の産業別構成比をみると、最も割合が高いのはサービスで24.9％を占め、次いで製造業（20.5％）、公務（10.1％）、商業（9.3％）、建設（8.8%）と続いている。製造業の内訳では、非鉄金属が 5.7％で最も高く、次いで飲食料品（5.1％）、業務用機械（1.5％）、パルプ・紙・木製品及び鉄鋼（各 1.4％）、電子部品（1.1％）と続いている。第１次、２次、３次産業別にみると、最も割合が高いのは第３次産業で 63.8％を占め、次いで第２次産業（31.3％）、第１ 次産業（4.9％）の順となった。

産業別構成比を平成 17 年と比べると、上昇した主な産業は、製造業（2.7 ポイント）、サービス

（1.2 ポイント）、公務（0.8 ポイント）となっている。一方、低下した主な産業は、商業（△2.0ポイント）、金融・保険（△1.3 ポイント）、運輸・郵便（△0.7 ポイント）、不動産（△0.5 ポイント）となっている。製造業の内訳では、非鉄金属（4.3 ポイント）、業務用機械（0.4 ポイント）、輸送機械（0.3 ポイント）などがプラスとなった一方、パルプ・紙・木製品（△0.8 ポイント）、飲食料品及び電子部品（各△0.4 ポイント）、情報・通信機器（△0.2 ポイント）などはマイナスとなった。第１次、２次、３次産業別にみると、第１次産業が 0.5 ポイントの低下、第２次産業が 2.4 ポイントの上昇、第３次産業が 1.9 ポイントの低下となった。

また、産業別県内生産額の平成 17 年からの伸び率をみると、プラスとなった主な産業は、情報通信（20.5%）、製造業（16.5%）、公務（9.9％）、畜産（9.3％）となっている。一方、マイナスと なった主な産業は、鉱業（△42.2％）、林業（△37.5％）、漁業（△32.6％）となっている。製造 業の内訳では、非鉄金属（303.8％）、輸送機械（122.8％）、石油・石炭製品（47.5％）、業務用機械（39.6％）などがプラスとなった一方、情報・通信機器（△73.9％）、パルプ・紙・木製品（△

34.5％）、はん用機械（△33.3％）、電子部品（△28.7％）などはマイナスとなった。第１次、２ 次、３次産業別にみると、第１次産業が 6.5％のマイナス、第２次産業が 9.6％のプラス、第３次産業が 1.4％のマイナスとなった。

（注）本報告書の平成 17 年値は、平成 23 年値と比較するため、37 部門を 40 部門に組み替えている。

用語の解説

産業

産業連関表でいう「産業」とは、約 3,600 に分類した財・サービスの個々の商品を意味しており、同一事業所で 2 つ以上の商品を生産している場合、産業連関表では、それぞれを区分けして該当する各産業部門に分類する。したがって、企業あるいは事業所をベースとして分類されている通常の「産業」と はその概念を異にする。

なお、以下の解説では便宜的に「産業」という語を用いている。

図２－２ 産業別生産額の構成

畜産

 サービス

 公務

 不

 動

 産

建設

農業

情報通信

鉱業

分類不明

電力・ガス・水道 金融・保険 運輸・郵便

林業 漁業

商業

製造業

平成17年

平成23年

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

農業 畜産 林業 漁業

鉱業 製造業 建設 電力・ガス・水道

商業 金融・保険 不動産 運輸・郵便情報通信 公務 サービス 分類不明

表２－２ 産業別県内生産額

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 実額（億円） | 構成比（％） | 伸び率（％） | 寄与度（％） |
| 平成１７年 | 平成２３年 | 平成１７年 | 平成２３年 | 17年／23年 | 17年／23年 |
| 産業計 | 74,999 | 76,110 | 100.0 | 100.0 | 1.5 | 1.48 |
|  | 農業 | 2,374 | 2,329 | 3.2 | 3.1 | -1.9 | -0.06 |
| 畜産 | 796 | 870 | 1.1 | 1.1 | 9.3 | 0.10 |
| 林業 | 232 | 145 | 0.3 | 0.2 | -37.5 | -0.12 |
| 漁業 | 629 | 424 | 0.8 | 0.6 | -32.6 | -0.27 |
| 鉱業 | 287 | 166 | 0.4 | 0.2 | -42.2 | -0.16 |
| 製造業 | 13,368 | 15,580 | 17.8 | 20.5 | 16.5 | 2.95 |
|  | 飲食料品 | 4,124 | 3,918 | 5.5 | 5.1 | -5.0 | -0.27 |
| 繊維製品 | 401 | 472 | 0.5 | 0.6 | 17.7 | 0.09 |
| パルプ・紙・木製品 | 1,678 | 1,099 | 2.2 | 1.4 | -34.5 | -0.77 |
| 化学製品 | 316 | 253 | 0.4 | 0.3 | -19.9 | -0.08 |
| 石油・石炭製品 | 40 | 59 | 0.1 | 0.1 | 47.5 | 0.03 |
| プラスチック・ゴム | 153 | 136 | 0.2 | 0.2 | -11.1 | -0.02 |
| 窯業・土石製品 | 412 | 307 | 0.5 | 0.4 | -25.5 | -0.14 |
| 鉄鋼 | 1,119 | 1,092 | 1.5 | 1.4 | -2.4 | -0.04 |
| 非鉄金属 | 1,074 | 4,337 | 1.4 | 5.7 | 303.8 | 4.35 |
| 金属製品 | 386 | 305 | 0.5 | 0.4 | -21.0 | -0.11 |
| はん用機械 | 39 | 26 | 0.1 | 0.0 | -33.3 | -0.02 |
| 生産用機械 | 465 | 385 | 0.6 | 0.5 | -17.2 | -0.11 |
| 業務用機械 | 818 | 1,142 | 1.1 | 1.5 | 39.6 | 0.43 |
| 電子部品 | 1,141 | 814 | 1.5 | 1.1 | -28.7 | -0.44 |
| 電気機械 | 375 | 429 | 0.5 | 0.6 | 14.4 | 0.07 |
| 情報・通信機器 | 241 | 63 | 0.3 | 0.1 | -73.9 | -0.24 |
| 輸送機械 | 162 | 361 | 0.2 | 0.5 | 122.8 | 0.27 |
| その他の製造工業製品 | 297 | 259 | 0.4 | 0.3 | -12.8 | -0.05 |
| 事務用品 | 126 | 123 | 0.2 | 0.2 | -2.4 | 0.00 |
| 建設 | 6,629 | 6,665 | 8.8 | 8.8 | 0.5 | 0.05 |
| 電力・ガス・水道 | 1,884 | 1,809 | 2.5 | 2.4 | -4.0 | -0.10 |
| 商業 | 8,438 | 7,068 | 11.3 | 9.3 | -16.2 | -1.83 |
| 金融・保険 | 3,201 | 2,314 | 4.3 | 3.0 | -27.7 | -1.18 |
| 不動産 | 5,430 | 5,107 | 7.2 | 6.7 | -5.9 | -0.43 |
| 運輸・郵便 | 4,397 | 3,993 | 5.9 | 5.2 | -9.2 | -0.54 |
| 情報通信 | 2,101 | 2,531 | 2.8 | 3.3 | 20.5 | 0.57 |
| 公務 | 7,005 | 7,699 | 9.3 | 10.1 | 9.9 | 0.93 |
| サービス | 17,809 | 18,942 | 23.7 | 24.9 | 6.4 | 1.51 |
| 分類不明 | 420 | 469 | 0.6 | 0.6 | 11.7 | 0.07 |
| （ 再掲） | 第1次産業 | 4,031 | 3,767 | 5.4 | 4.9 | -6.5 | -0.35 |
| 第2次産業 | 21,711 | 23,793 | 28.9 | 31.3 | 9.6 | 2.78 |
| 第3次産業 | 49,258 | 48,550 | 65.7 | 63.8 | -1.4 | -0.94 |

# ３ 粗 付 加 価 値

生産額から原材料・燃料等の財及びサービスの購入費用などの中間投入を除いた部分が粗付加価値であり、家計外消費支出、雇用者所得、営業余剰、資本減耗引当、間接税、控除項目の補助金によって構成される。なお、粗付加価値から家計外消費支出を除いた部分が、県民経済計算の県内総生産にほぼ対応する。

平成 23 年に県内産業の生産活動によって生み出された粗付加価値の総額は 4 兆 3,440 億円で、平成 17 年と比べて 487 億円減少した。また、生産額に占める割合（粗付加価値率）は 57.1％で、平成 17 年の 58.6％と比べて 1.5 ポイント低下した。

粗付加価値の内訳をみると、最も大きいものが雇用者所得の 2 兆 538 億円（粗付加価値総額の47.3％）で、次いで資本減耗引当 1 兆 441 億円（同 24.0％）、営業余剰 9,425 億円（同 21.7％）、間接税及び補助金 1,704 億円（同 3.9％）、家計外消費支出 1,332 億円（同 3.1％）の順となり、平成 17 年と比べると、資本減耗引当、営業余剰及び家計外消費支出の構成比が上昇した一方、雇用者所得、間接税及び補助金の構成比は低下した。

また、平成 17 年からの伸び率をみると、資本減耗引当が 13.5％、営業余剰が 6.1%、家計外消費支出が 4.1%それぞれプラスとなったものの、間接税及び補助金が 16.3％、雇用者所得が 8.8％それぞれマイナスとなり、粗付加価値の総額は 1.1％のマイナスとなった。

用語の解説

粗付加価値

生産活動を行う際には、原材料、燃料などの物的経費の他に、労働、資本などの生産要素が必要であ り、これらの提供への対価、すなわち、生産活動によって新たに付加されたものが付加価値である。産 業連関表においては、所得統計ベースで物的経費となる家計外消費支出が含まれているため、粗付加価 値と言っている。

図２－３ 項目別粗付加価値の構成

平成17年

3.9

1

3.

4.6

 20.9

 20.2

 51.3

9

2.

間接税及び補助金

家計外消費支出

24.0

21.7

47.3

資本減耗引当

営業余剰

雇用者所得

平成23年

0% 20% 40% 60% 80% 100%

家計外消費支出 雇用者所得 営業余剰 資本減耗引当 間接税及び補助金

表２－３ 粗付加価値

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 実額(億円） | 構成比（％） | 伸び率（％） |
| 平成17年 | 平成23年 | 平成17年 | 平成23年 | 17～23 |
| 粗付加価値計 | 43,927 | 43,440 | 100.0 | 100.0 | -1.1 |
| 家計外消費支出 | 1,280 | 1,332 | 2.9 | 3.1 | 4.1 |
| 雇用者所得 | 22,529 | 20,538 | 51.3 | 47.3 | -8.8 |
| 営業余剰 | 8,885 | 9,425 | 20.2 | 21.7 | 6.1 |
| 資本減耗引当 | 9,199 | 10,441 | 20.9 | 24.0 | 13.5 |
| 間接税 | 2,492 | 2,139 | 5.7 | 4.9 | -14.2 |
| （控除）補助金 | -457 | -434 | -1.0 | -1.0 | 5.0 |
| （再掲）間接税及び補助金 | 2,035 | 1,704 | 4.6 | 3.9 | -16.3 |

# ４ 中 間 投 入

平成 23 年の県内生産額 7 兆 6,110 億円のうち、財・サービスの生産に必要となった原材料、燃料等の中間投入額は 3 兆 2,669 億円で、平成 17 年と比べ 1,597 億円増加した。また、生産額に占める割合（中間投入率）は 42.9％となり、平成 17 年の 41.4％と比べて 1.5 ポイント上昇した。

中間投入率を産業別にみると、畜産が 80.5％で最も高く、次いで製造業（61.5％）、電力・ガス・水道（59.1％）、鉱業（58.5％）と続いている。一方、不動産（17.8％）、商業（28.1％）、金融・保険（29.0％）、公務（34.7％）では中間投入率が低くなっている。製造業の内訳では、はん用機械が 79.1％で最も高く、次いで飲食料品（76.9％）、輸送機械（72.1％）、パルプ・紙・木製品（71.0％）、情報・通信機器（69.4％）と続いている。

また、中間投入率を産業別に平成 17 年と比べると、電力・ガス・水道、林業、公務などで上昇し、金融・保険、製造業、建設では低下している。製造業の内訳では、業務用機械、はん用機械、非鉄金属などで上昇し、石油・石炭製品、窯業・土石製品、鉄鋼などでは低下した。

# ５ 中 間 需 要

平成 23 年の総需要額 10 兆 6,799 億円のうち、県内の生産活動の原材料、燃料などとして消費された中間需要額は 3 兆 2,669 億円で、平成 17 年と比べ 1,597 億円増加した。また、総需要に占める割合（中間需要率）は 30.6％となり、平成 17 年の 30.6％と同値となった。

中間需要率を産業別にみると、鉱業の 82.0％が最も高く、次いで電力・ガス・水道（71.6％）、畜産（66.5％）、金融・保険（54.6％）と続いている。 一方、公務（1.4％）、建設（8.6％）では中間需要率が低くなっている。製造業の内訳では、窯業・土石製品が 83.6％で最も高く、次いでプラスチック・ゴム（82.1％）、金属製品（76.6％）、化学製品（75.3％）、その他の製造工業製品

（57.7％）と続いている。

また、中間需要率を産業別に平成 17 年と比べると、漁業、不動産、電力・ガス・水道などで上昇し、金融・保険、情報通信、畜産、製造業などでは低下した。製造業の内訳では、電子部品、プラスチック・ゴム、鉄鋼などで上昇し、輸送機械、はん用機械、生産用機械などでは低下した。

用語の解説

中間投入額（率）

各産業部門の生産活動に必要な原材料、燃料などの財及びサービスの購入費用をいう。中間投入額を その産業部門の県内生産額で除した割合が中間投入率である。

中間投入率＝中間投入額／生産額×100

中間需要額（率）

各産業部門はその生産物を、他の部門の原材料、燃料として産出（販売）している。その額が中間需 要額。中間需要率はその産業の需要合計で除した割合で、産業連関表を横にみている。

中間需要率＝中間需要額／需要合計×100

表２－４ 中間投入・中間需要

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 中間投入 | 中間需要 |
| 実額（億円） | 率（％） | 実額（億円） | 率（％） |
| 平成17年 | 平成23年 | 平成17年 | 平成23年 | 平成17年 | 平成23年 | 平成17年 | 平成23年 |
| 産業計 | 31,072 | 32,669 | 41.4 | 42.9 | 31,072 | 32,669 | 30.6 | 30.6 |
|  | 農業 | 880 | 950 | 37.1 | 40.8 | 898 | 983 | 31.9 | 33.7 |
| 畜産 | 598 | 700 | 75.2 | 80.5 | 737 | 734 | 68.6 | 66.5 |
| 林業 | 65 | 52 | 27.8 | 35.7 | 93 | 65 | 34.9 | 38.6 |
| 漁業 | 262 | 189 | 41.7 | 44.6 | 349 | 413 | 41.1 | 53.5 |
| 鉱業 | 162 | 97 | 56.4 | 58.5 | 646 | 417 | 77.5 | 82.0 |
| 製造業 | 8,558 | 9,578 | 64.0 | 61.5 | 10,942 | 11,838 | 37.5 | 35.7 |
|  | 飲食料品 | 3,095 | 3,013 | 75.1 | 76.9 | 1,583 | 1,426 | 22.3 | 21.0 |
| 繊維製品 | 243 | 292 | 60.6 | 61.9 | 304 | 304 | 29.5 | 28.9 |
| パルプ・紙・木製品 | 1,212 | 780 | 72.3 | 71.0 | 1,326 | 983 | 53.9 | 55.3 |
| 化学製品 | 155 | 112 | 49.0 | 44.4 | 1,217 | 1,442 | 71.5 | 75.3 |
| 石油・石炭製品 | 31 | 37 | 76.4 | 62.8 | 1,068 | 1,264 | 58.2 | 54.5 |
| プラスチック・ゴム | 94 | 83 | 61.8 | 65.2 | 499 | 491 | 75.6 | 82.1 |
| 窯業・土石製品 | 277 | 173 | 67.2 | 56.2 | 604 | 497 | 80.9 | 83.6 |
| 鉄鋼 | 734 | 651 | 65.6 | 59.6 | 548 | 666 | 34.3 | 39.4 |
| 非鉄金属 | 420 | 1,997 | 39.1 | 46.0 | 400 | 1,605 | 26.4 | 26.8 |
| 金属製品 | 218 | 189 | 56.4 | 62.0 | 820 | 720 | 77.1 | 76.6 |
| はん用機械 | 23 | 21 | 58.8 | 79.1 | 132 | 129 | 24.6 | 20.3 |
| 生産用機械 | 300 | 240 | 64.5 | 62.3 | 128 | 82 | 12.2 | 8.2 |
| 業務用機械 | 276 | 700 | 33.7 | 61.3 | 238 | 363 | 16.0 | 19.5 |
| 電子部品 | 683 | 486 | 59.9 | 59.6 | 547 | 517 | 32.7 | 44.3 |
| 電気機械 | 235 | 247 | 62.7 | 57.7 | 199 | 186 | 16.9 | 13.4 |
| 情報・通信機器 | 177 | 44 | 73.3 | 69.4 | 52 | 57 | 6.0 | 6.8 |
| 輸送機械 | 120 | 260 | 74.3 | 72.1 | 534 | 445 | 34.7 | 28.7 |
| その他の製造工業製品 | 139 | 129 | 46.9 | 47.9 | 617 | 537 | 59.0 | 57.7 |
| 事務用品 | 126 | 123 | 100.0 | 100.0 | 126 | 123 | 100.0 | 100.0 |
| 建設 | 3,552 | 3,426 | 53.6 | 51.4 | 538 | 572 | 8.1 | 8.6 |
| 電力・ガス・水道 | 934 | 1,069 | 49.6 | 59.1 | 1,323 | 1,674 | 66.1 | 71.6 |
| 商業 | 2,516 | 1,984 | 29.8 | 28.1 | 2,800 | 2,783 | 23.6 | 23.0 |
| 金融・保険 | 1,128 | 671 | 35.2 | 29.0 | 2,134 | 1,571 | 63.0 | 54.6 |
| 不動産 | 596 | 910 | 11.0 | 17.8 | 443 | 801 | 8.1 | 15.3 |
| 運輸・郵便 | 2,190 | 2,041 | 51.0 | 51.1 | 2,623 | 2,865 | 48.1 | 51.7 |
| 情報通信 | 863 | 1,065 | 39.0 | 42.1 | 1,760 | 1,640 | 45.5 | 39.3 |
| 公務 | 1,937 | 2,668 | 27.7 | 34.7 | 117 | 106 | 1.7 | 1.4 |
| サービス | 6,367 | 6,992 | 35.8 | 36.9 | 5,250 | 5,738 | 25.6 | 27.2 |
| 分類不明 | 464 | 280 | 110.5 | 59.7 | 420 | 469 | 98.5 | 99.8 |
| （再掲） | 第1次産業 | 1,805 | 1,890 | 44.8 | 50.2 | 2,077 | 2,195 | 41.5 | 44.2 |
| 第2次産業 | 12,994 | 13,982 | 59.9 | 58.8 | 13,156 | 14,218 | 34.4 | 33.7 |
| 第3次産業 | 16,273 | 16,797 | 33.0 | 34.6 | 15,839 | 16,257 | 27.1 | 27.3 |

（注）40 部門表による。製造業計には事務用品を含む。

平成 17 年の分類不明は金融（帰属利子）部門の分類不明（列）部門への産出が大きいことから、営業余剰にマイナスの額を計上することでバランスをとっているため、中間投入率が 100 を超えている。

中間投入率＝中間投入計／生産額×100 中間需要率＝中間需要計／需要合計×100

# ６ 産業相互の依存関係

各産業部門間には原材料などの需要と供給を通じて、密接な相互依存関係が成立している。中間需要率と中間投入率の大小により各産業を分類すると、４つのグループに分類される。

（Ⅰ）中間財産業（中間投入率、中間需要率とも 50％以上の産業）

このグループは、他の部門から多くの原材料などを購入して生産を行い、その生産物の多くを他の部門の原材料などとして販売している産業からなっている。パルプ・紙・木製品、畜産、金属製品などがある。

（Ⅱ）最終需要財産業（中間投入率が 50％以上で、中間需要率が 50％以下の産業）

このグループは他の部門から多くの原材料などを購入して生産を行い、その生産物の多くを最終需要部門へ販売している産業からなっている。建設、飲食料品、電子部品などがある。

（Ⅲ）最終需要財的基礎産業（中間投入率、中間需要率とも 50％以下の産業）

このグループは生産において原材料依存の割合が低く、その生産物の多くを最終需要部門へ販売している産業からなっている。サービス、不動産、商業などがある。

（Ⅳ）中間財的基礎産業（中間投入率が 50％以下で、中間需要率が 50％以上の産業）

このグループは生産において原材料依存の割合が低く、その生産物の多くを他の部門へ原材料などとして販売している産業からなっている。化学製品、その他の製造工業製品がある。

なお、産業全体では（Ⅲ）に該当し、第１次、２次、３次産業別にみると、第１次産業及び第２ 次産業は（Ⅱ）に、第３次産業は（Ⅲ）に該当する。

（Ⅰ）中間財産業、（Ⅱ）最終需要財産業、（Ⅲ）最終需要財的基礎産業、（Ⅳ）中間財的基礎 産業のそれぞれに分類される産業の生産額の合計をみると、（Ⅰ）が 8,743 億円（構成比 11.6％）、

（Ⅱ）が 1 兆 5,368 億円（同 20.3％）、（Ⅲ）が 4 兆 8,157 億円（同 63.8％）、（Ⅳ）が 3,249 億円（同 4.3％）となり、構成比を平成 17 年と比較すると、（Ⅰ）が 6.6 ポイントの上昇、（Ⅱ）が 5.0 ポイントの低下、（Ⅲ）が 3.0 ポイントの上昇、（Ⅳ）が 3.2 ポイントの低下となった。

図２－４ 生産の依存関係からみた産業の類型

（％） 100.0

|  |  |
| --- | --- |
| （Ⅱ）最終需要財産業はん用機械情報・通信機器 飲食料品輸送機械生産用機械 繊維製品 電子部品電気機械 業務用機械 鉄鋼建設 | （Ⅰ）中間財産業畜産パルプ・紙・木製品プラスチック・ゴム石油・石炭製品 金属製品鉱業電力・ガス・水道運輸・郵便 窯業・土石製品 |
| 非鉄金属 情報通信農業公務 サービス林業商業不動産（Ⅲ）最終需要財的基礎産業 | その他の製造工業製品漁業 化学製品金融・保険（Ⅳ）中間財的基礎産業 |

## 中間

投 50.0

## 入率

0.0

0.0 50.0 100.0

## 中 間 需 要 率

（％）

図２－５ 生産の依存関係からみた産業の類型別生産額の構成

平成17年

.3

4

 7.5

 (Ⅲ)最終需要財的基礎産業

 60.8

 (Ⅱ)最終需要産業

 25.3

 5.0

(Ⅳ)中間財的基礎産業

(Ⅰ）中間財産業

63.8

20.3

11.6

平成23年

0% 20% 40% 60% 80% 100%

（Ⅰ）中間財産業 （Ⅱ）最終需要財産業 （Ⅲ）最終需要財的基礎産業 （Ⅳ）中間財的基礎産業

# ７ 最 終 需 要

最終需要は、家計外消費支出、民間消費支出、一般政府消費支出、県内総固定資本形成（公的）、県内総固定資本形成（民間）、在庫純増、調整項、移輸出で構成されており、全ての生産活動はこれらの需要を満たすために行われる。なお、最終需要から家計外消費支出及び移輸入を除いた部分が、県民経済計算の県内総生産（支出側）にほぼ対応する。

平成23 年における本県の最終需要額は7 兆4,130 億円で、平成17 年と比べ3,551 億円増加した。最終需要の内訳をみると、最も大きいものが民間消費支出の 2 兆 4,730 億円（最終需要総額の

33.4％）で、次いで移輸出2 兆2,170 億円（同29.9％）、一般政府消費支出1 兆4,640 億円（同19.7％）、県内総固定資本形成（民間）7,555 億円（同 10.2％）、県内総固定資本形成（公的）3,594 億円（同

4.8％）、家計外消費支出 1,332 億円（同 1.8％）、在庫純増 56 億円（同 0.1％）の順となっており、平成 17 年と比べると、一般政府消費支出の構成比が上昇した一方、民間消費支出、県内総固定資本形成（公的）、在庫純増の構成比は低下した。

また、平成 17 年からの伸び率をみると、在庫純増（△67.8％）、県内総固定資本形成（公的）（△

3.7％）、民間消費支出（△0.5％）がマイナスとなったものの、移輸出（12.3％）、一般政府消費 支出（7.8％）、県内総固定資本形成（民間）（4.6％）、家計外消費支出（4.1％）がプラスとなり、最終需要の総額は 5.0％のプラスとなった。

用語の解説

最終需要

原材料のように他の生産活動に利用されるのではなく、最終的に消費される財・サービスに対する需 要で、投資も含まれる。また、生産活動によって生みだされた粗付加価値に対し、次の関係が成立して いる。

最終需要－移輸入＝粗付加価値

図２－６ 項目別最終需要額の構成

平成17年

※調整項 0.1

4.8

1

1

0.

.8

19.2

1

 28.0

.2

 10.2 0

 5.3

 民間消費支出

 35.2

.8

県内総固定資本形成(民間)

在庫純増

県内総固定資本形成(公的)

家計外消費支出

一般政府消費支出

29.9

10.2

19.7

33.4

移輸出

平成23年

0% 20% 40% 60% 80% 100%

家計外消費支出 民間消費支出 一般政府消費支出県内総固定資本形成（公的） 県内総固定資本形成（民間） 在庫純増

調整項 移輸出

表２－５ 最終需要

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 実額(億円） | 構成比（％） | 伸び率（％） |
| 平成17年 | 平成23年 | 平成17年 | 平成23年 | 17～23 |
| 最終需要計 | 70,579 | 74,130 | 100.0 | 100.0 | 5.0 |
| 家計外消費支出 | 1,280 | 1,332 | 1.8 | 1.8 | 4.1 |
| 民間消費支出 | 24,847 | 24,730 | 35.2 | 33.4 | -0.5 |
| 一般政府消費支出 | 13,579 | 14,640 | 19.2 | 19.7 | 7.8 |
| 県内総固定資本形成（公的） | 3,734 | 3,594 | 5.3 | 4.8 | -3.7 |
| 県内総固定資本形成（民間） | 7,224 | 7,555 | 10.2 | 10.2 | 4.6 |
| 在庫純増 | 174 | 56 | 0.2 | 0.1 | -67.8 |
| 移輸出 | 19,741 | 22,170 | 28.0 | 29.9 | 12.3 |

（注）平成23年最終需要計には調整項を含む。

# ８ 移 輸 出 と 移 輸 入

平成 23 年の移輸出額は 2 兆 2,170 億円で、平成 17 年と比べて 2,429 億円増加した。産業別構成比をみると、最も割合が高いのは製造業で 56.4％を占め、次いで商業（19.8％）、農業（7.3％）、運輸・郵便（7.2％）、サービス（2.9％）と続いている。製造業の内訳では、非鉄金属が 19.5％と最も高く、次いで飲食料品（11.9％）、業務用機械（4.8％）、鉄鋼（4.6％）、パルプ・紙・木製品（3.3％）と続いている。

産業別構成比を平成 17 年と比べると、上昇した主な産業は、製造業（6.1 ポイント）、情報通信

（0.9 ポイント）となっている。一方、低下した主な産業は、サービス（△3.1 ポイント）、商業（△

1.5 ポイント）、農業（△0.9 ポイント）となっている。製造業の内訳では、非鉄金属（14.1 ポイント）、輸送機械（0.8 ポイント）、業務用機械（0.7 ポイント）などが上昇した一方、電子部品（△

2.7 ポイント）、パルプ・紙・木製品（△2.0 ポイント）、飲食料品（△1.8 ポイント）などは低下した。

産業別移輸出額の平成 17 年からの伸び率をみると、プラスとなった主な産業は、林業（88.9％）、情報通信（85.1％）、金融・保険（55.7％）、製造業（25.9％）となっている。一方、マイナスとなった主な産業は、鉱業（△48.9）、サービス（△46.0％）、漁業（△28.3％）となっている。製 造業の内訳では、非鉄金属（305.8％）、輸送機械（124.5％）、はん用機械（83.3％）、業務用機械（31.9％）などがプラスとなった一方、情報・通信機器（△68.2％）、プラスチック・ゴム（△

51.6％）、電子部品（△42.9％）などはマイナスとなった。

また、移輸出額の生産額に対する割合（移輸出率）は 29.1％となり、平成 17 年の 26.3％と比べて 2.8 ポイント上昇した。移輸出率を産業別にみると、製造業が 80.2％で最も高く、次いで漁業

（74.2％）、農業（69.9％）、商業（62.1％）と続いている。一方、電力・ガス・水道（0.1％）、サービス（3.3％）、金融・保険（4.7％）では移輸出率が低くなっている。製造業の内訳では、非 鉄金属が 99.9％で最も高く、次いで情報・通信機器（99.7％）、業務用機械（93.8％）、鉄鋼（93.0％） と続いている。

移輸出率を産業別に平成 17 年と比べると、上昇した主な産業は、林業（23.3 ポイント）、商業

（12.4 ポイント）、情報通信（7.1 ポイント）、製造業（5.9 ポイント）となっている。一方、低下した主な産業は、鉱業（△7.7 ポイント）、サービス（△3.3 ポイント）となっている。製造業の内訳では、はん用機械（50.9 ポイント）、情報・通信機器（17.7 ポイント）、生産用機械（8.5 ポイント）などがプラスとなった一方、プラスチック・ゴム（△27.3 ポイント）、電子部品（△19.5 ポイント）、業務用機械（△5.4 ポイント）などはマイナスとなった。

用語の解説

移輸出率

県内生産額に対する移輸出額（県外へ移出及び輸出された財・サービス）の割合 移輸出率＝移輸出額／県内生産額

表２－６ 産業別移輸出額・移輸出率

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 実額（億円） | 構成比（％） | 伸び率（％） | 移輸出率（％） |
| 平成１７年 | 平成２３年 | 平成１７年 | 平成２３年 | 17年→23年 | 平成１７年 | 平成２３年 |
| 産業計 | 19,741 | 22,170 | 100.0 | 100.0 | 12.3 | 26.3 | 29.1 |
|  | 農業 | 1,611 | 1,629 | 8.2 | 7.3 | 1.1 | 67.9 | 69.9 |
| 畜産 | 300 | 320 | 1.5 | 1.4 | 6.7 | 37.8 | 36.8 |
| 林業 | 27 | 51 | 0.1 | 0.2 | 88.9 | 11.8 | 35.1 |
| 漁業 | 438 | 314 | 2.2 | 1.4 | -28.3 | 69.6 | 74.2 |
| 鉱業 | 188 | 96 | 1.0 | 0.4 | -48.9 | 65.5 | 57.8 |
| 製造業 | 9,928 | 12,500 | 50.3 | 56.4 | 25.9 | 74.3 | 80.2 |
|  | 飲食料品 | 2,714 | 2,639 | 13.7 | 11.9 | -2.8 | 65.8 | 67.4 |
| 繊維製品 | 392 | 437 | 2.0 | 2.0 | 11.5 | 97.6 | 92.7 |
| パルプ・紙・木製品 | 1,043 | 728 | 5.3 | 3.3 | -30.2 | 62.2 | 66.2 |
| 化学製品 | 269 | 219 | 1.4 | 1.0 | -18.6 | 85.1 | 86.7 |
| 石油・石炭製品 | 0 | 2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.6 | 3.8 |
| プラスチック・ゴム | 91 | 44 | 0.5 | 0.2 | -51.6 | 59.6 | 32.3 |
| 窯業・土石製品 | 123 | 85 | 0.6 | 0.4 | -30.9 | 29.9 | 27.5 |
| 鉄鋼 | 1,042 | 1,015 | 5.3 | 4.6 | -2.6 | 93.1 | 93.0 |
| 非鉄金属 | 1,068 | 4,334 | 5.4 | 19.5 | 305.8 | 99.4 | 99.9 |
| 金属製品 | 185 | 159 | 0.9 | 0.7 | -14.1 | 48.0 | 52.1 |
| はん用機械 | 12 | 22 | 0.1 | 0.1 | 83.3 | 31.7 | 82.6 |
| 生産用機械 | 299 | 280 | 1.5 | 1.3 | -6.4 | 64.3 | 72.8 |
| 業務用機械 | 812 | 1,071 | 4.1 | 4.8 | 31.9 | 99.2 | 93.8 |
| 電子部品 | 1,111 | 634 | 5.6 | 2.9 | -42.9 | 97.4 | 77.9 |
| 電気機械 | 327 | 367 | 1.7 | 1.7 | 12.2 | 87.0 | 85.6 |
| 情報・通信機器 | 198 | 63 | 1.0 | 0.3 | -68.2 | 82.0 | 99.7 |
| 輸送機械 | 147 | 330 | 0.7 | 1.5 | 124.5 | 91.2 | 91.5 |
| その他の製造工業製品 | 94 | 69 | 0.5 | 0.3 | -26.6 | 31.6 | 26.7 |
| 事務用品 | 0 | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 建設 | 0 | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 電力・ガス・水道 | 0 | 2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.1 |
| 商業 | 4,196 | 4,389 | 21.3 | 19.8 | 4.6 | 49.7 | 62.1 |
| 金融・保険 | 70 | 109 | 0.4 | 0.5 | 55.7 | 2.2 | 4.7 |
| 不動産 | 0 | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 運輸・郵便 | 1,523 | 1,607 | 7.7 | 7.2 | 5.5 | 34.6 | 40.2 |
| 情報通信 | 281 | 520 | 1.4 | 2.3 | 85.1 | 13.4 | 20.5 |
| 公務 | 0 | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| サービス | 1,175 | 635 | 6.0 | 2.9 | -46.0 | 6.6 | 3.3 |
| 分類不明 | 4 | 0 | 0.0 | 0.0 | -100.0 | 1.1 | 0.1 |
| （ 再掲） | 第1次産業 | 2,377 | 2,314 | 12.0 | 10.4 | -2.7 | 59.0 | 61.4 |
| 第2次産業 | 10,115 | 12,597 | 51.2 | 56.8 | 24.5 | 46.6 | 52.9 |
| 第3次産業 | 7,248 | 7,259 | 36.7 | 32.7 | 0.2 | 14.7 | 15.0 |

(注)40 部門表による。製造業計には事務用品を含む。

平成 23 年の移輸入額は 3 兆 689 億円で、平成 17 年と比べて 4,037 億円増加した。産業別構成比をみると、最も割合が高いのは製造業で 57.3％を占め、次いで商業（16.3％）、サービス（7.0％）、情報通信（5.4％）と続いている。製造業の内訳では、飲食料品が 9.4％で最も高く、次いで石油・石炭製品（7.4％）、化学製品及び非鉄金属（各 5.4％）、輸送機械（3.9％）と続いている。

産業別構成比を平成 17 年と比べると、上昇した主な産業は、商業（3.5 ポイント）、電力・ガス・水道（1.3％）、金融・保険（1.1 ポイント）となっている。一方、低下した主な産業は、サービス

（△3.3 ポイント）、製造業（△2.1 ポイント）、鉱業（△0.9 ポイント）、情報通信（△0.8 ポイント）となっている。製造業の内訳では、非鉄金属（3.8 ポイント）、石油・石炭製品（0.7 ポイント）などが上昇した一方、飲食料品（△1.8 ポイント）、輸送機械（△1.3 ポイント）などが低下した。

産業別移輸入額の平成 17 年からの伸び率を見ると、プラスとなった主な産業は、不動産

（1350.0％）、電力・ガス・水道（359.1％）、金融・保険（198.4％）となっている。一方、マイナスとなった主な産業は、鉱業（△37.2％）、林業（△32.4％）、サービス（△21.8％）となって いる。なお、製造業は 11.0％のプラスであり、その内訳をみると、非鉄金属（275.3％）、石油・石炭製品（25.8％）、鉄鋼（25.1％）がプラスとなった一方、電子部品（△33.5％）、窯業・土石 製品（△14.3％）、輸送機械（△13.6％）などがマイナスとなった。

また、移輸入額の県内需要額（調整項を除く）に対する割合（移輸入率）は 36.3％となり、平成

17 年の 32.5％と比べて 3.8 ポイント上昇した。移輸入率を産業別に見ると、製造業が 85.3％で最も高く、次いで鉱業（83.1％）、漁業（76.2％）、商業（65.2％）と続いている。一方、不動産（2.8％）、 サービス（10.5％）では移輸入率が低くなっている。製造業の内訳では、情報・通信機器が 100.0％ で最も高く、次いで非鉄金属（99.9％）、はん用機械（99.3％）、化学製品及び輸送機械（各 98.1％） と続いている。

移輸入率を産業別に平成 17 年と比べると、上昇した主な産業は、漁業（22.8 ポイント）、商業

（20.6 ポイント）、電力・ガス・水道（16.8 ポイント）となっている。一方、低下した主な産業は、畜産（△6.2 ポイント）、サービス（△3.6 ポイント）、鉱業（△1.6 ポイント）となっている。なお、製造業は 3.1 ポイントのプラスであり、その内訳をみると、パルプ・紙・木製品（9.4 ポイント）、生産用機械（7.7 ポイント）、情報・通信機器（6.5 ポイント）などがプラスとなった一方、電子部品（△28.3 ポイント）、プラスチック・ゴム（△5.8 ポイント）、業務用機械（△4.8 ポイント）などがマイナスとなった。

用語の解説

移輸入率

県内需要額（調整項を除く）に対する移輸入（県外から移入及び輸入された財・サービス）の割合 移輸入率＝移輸入額／（県内需要額－調整項）

表２－７ 産業別移輸入額・移輸入率

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 実額（億円） | 構成比（％） | 伸び率（％） | 移輸入率（％） |
| 平成１７年 | 平成２３年 | 平成１７年 | 平成２３年 | 17年→23年 | 平成１７年 | 平成２３年 |
| 産業計 | 26,652 | 30,689 | 100.0 | 100.0 | 15.1 | 32.5 | 36.3 |
|  | 農業 | 446 | 590 | 1.7 | 1.9 | 32.3 | 36.9 | 45.8 |
| 畜産 | 280 | 234 | 1.1 | 0.8 | -16.4 | 36.1 | 29.9 |
| 林業 | 34 | 23 | 0.1 | 0.1 | -32.4 | 14.4 | 19.5 |
| 漁業 | 219 | 347 | 0.8 | 1.1 | 58.4 | 53.4 | 76.2 |
| 鉱業 | 546 | 343 | 2.0 | 1.1 | -37.2 | 84.7 | 83.1 |
| 製造業 | 15,836 | 17,581 | 59.4 | 57.3 | 11.0 | 82.2 | 85.3 |
|  | 飲食料品 | 2,973 | 2,878 | 11.2 | 9.4 | -3.2 | 67.8 | 69.3 |
| 繊維製品 | 630 | 580 | 2.4 | 1.9 | -7.9 | 98.5 | 94.4 |
| パルプ・紙・木製品 | 782 | 677 | 2.9 | 2.2 | -13.4 | 55.2 | 64.6 |
| 化学製品 | 1,387 | 1,663 | 5.2 | 5.4 | 19.9 | 96.7 | 98.1 |
| 石油・石炭製品 | 1,796 | 2,260 | 6.7 | 7.4 | 25.8 | 97.8 | 97.6 |
| プラスチック・ゴム | 508 | 462 | 1.9 | 1.5 | -9.1 | 89.2 | 83.4 |
| 窯業・土石製品 | 335 | 287 | 1.3 | 0.9 | -14.3 | 53.8 | 56.3 |
| 鉄鋼 | 478 | 598 | 1.8 | 1.9 | 25.1 | 86.1 | 89.4 |
| 非鉄金属 | 438 | 1,644 | 1.6 | 5.4 | 275.3 | 98.5 | 99.9 |
| 金属製品 | 678 | 635 | 2.5 | 2.1 | -6.3 | 77.1 | 81.3 |
| はん用機械 | 498 | 607 | 1.9 | 2.0 | 21.9 | 94.9 | 99.3 |
| 生産用機械 | 583 | 617 | 2.2 | 2.0 | 5.8 | 77.8 | 85.5 |
| 業務用機械 | 671 | 720 | 2.5 | 2.3 | 7.3 | 99.1 | 94.3 |
| 電子部品 | 529 | 352 | 2.0 | 1.1 | -33.5 | 94.7 | 66.4 |
| 電気機械 | 798 | 958 | 3.0 | 3.1 | 20.1 | 94.3 | 94.3 |
| 情報・通信機器 | 624 | 778 | 2.3 | 2.5 | 24.7 | 93.5 | 100.0 |
| 輸送機械 | 1,378 | 1,191 | 5.2 | 3.9 | -13.6 | 99.0 | 98.1 |
| その他の製造工業製品 | 748 | 673 | 2.8 | 2.2 | -10.0 | 78.6 | 78.0 |
| 事務用品 | 0 | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 建設 | 0 | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| 電力・ガス・水道 | 115 | 528 | 0.4 | 1.7 | 359.1 | 5.8 | 22.6 |
| 商業 | 3,417 | 5,009 | 12.8 | 16.3 | 46.6 | 44.6 | 65.2 |
| 金融・保険 | 188 | 561 | 0.7 | 1.8 | 198.4 | 5.7 | 20.3 |
| 不動産 | 10 | 145 | 0.0 | 0.5 | 1,350.0 | 0.2 | 2.8 |
| 運輸・郵便 | 1,157 | 1,547 | 4.3 | 5.0 | 33.7 | 29.5 | 39.3 |
| 情報通信 | 1,660 | 1,642 | 6.2 | 5.4 | -1.1 | 46.2 | 44.9 |
| 公務 | 0 | 0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| サービス | 2,736 | 2,139 | 10.3 | 7.0 | -21.8 | 14.1 | 10.5 |
| 分類不明 | 7 | 1 | 0.0 | 0.0 | -85.7 | 1.6 | 0.2 |
| （ 再掲） | 第1次産業 | 979 | 1,194 | 3.7 | 3.9 | 22.0 | 37.2 | 45.1 |
| 第2次産業 | 16,498 | 18,452 | 61.9 | 60.1 | 11.8 | 59.4 | 62.3 |
| 第3次産業 | 9,175 | 11,044 | 34.4 | 36.0 | 20.4 | 17.8 | 21.1 |

(注)40 部門表による。製造業計には事務用品を含む。

平成 23 年の移輸出額は 2 兆 2,170 億円、移輸入額は 3 兆 689 億円であり、8,519 億円の移輸入超過となっている。

産業別に移輸出額と移輸入額の差（県際収支）をみると、農業（1,039 億円）、畜産（86 億円）、運輸・郵便（60 億円）などで移輸出超過となっている一方、製造業（△5,081 億円）、サービス（△

1,504 億円）、情報通信（△1,122 億円）、商業（△620 億円）、電力・ガス・水道（△526 億円） などで移輸入超過となっている。製造業の内訳をみると、非鉄金属（2,690 億円）、鉄鋼（417 億円）、業務用機械（351 億円）、電子部品（282 億円）などで移輸出超過となっている一方、石油・石炭製品（△2,258 億円）、化学製品（△1,444 億円）、輸送機械（△861 億円）、情報・通信機器（△715 億円）などが移輸入超過となっている。

また、第１次、２次、３次産業別にみると、第１次産業が移輸出超過となった一方、第２次産業及び第３次産業は移輸入超過となった。

表２－８ 移輸出と移輸入

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 移輸出（Ａ）（億円） | 移輸入（Ｂ）（億円） | 県際収支（Ａ）－（Ｂ）（億円） |
| 産業計 | 22,170 | 30,689 | -8,519 |
|  | 農業 | 1,629 | 590 | 1,039 |
| 畜産 | 320 | 234 | 86 |
| 林業 | 51 | 23 | 28 |
| 漁業 | 314 | 347 | -33 |
| 鉱業 | 96 | 343 | -247 |
| 製造業 | 12,500 | 17,581 | -5,081 |
|  | 飲食料品 | 2,639 | 2,878 | -239 |
| 繊維製品 | 437 | 580 | -143 |
| パルプ・紙・木製品 | 728 | 677 | 51 |
| 化学製品 | 219 | 1,663 | -1,444 |
| 石油・石炭製品 | 2 | 2,260 | -2,258 |
| プラスチック・ゴム | 44 | 462 | -418 |
| 窯業・土石製品 | 85 | 287 | -202 |
| 鉄鋼 | 1,015 | 598 | 417 |
| 非鉄金属 | 4,334 | 1,644 | 2,690 |
| 金属製品 | 159 | 635 | -476 |
| はん用機械 | 22 | 607 | -585 |
| 生産用機械 | 280 | 617 | -337 |
| 業務用機械 | 1,071 | 720 | 351 |
| 電子部品 | 634 | 352 | 282 |
| 電気機械 | 367 | 958 | -591 |
| 情報・通信機器 | 63 | 778 | -715 |
| 輸送機械 | 330 | 1,191 | -861 |
| その他の製造工業製品 | 69 | 673 | -604 |
| 事務用品 | 0 | 0 | 0 |
| 建設 | 0 | 0 | 0 |
| 電力・ガス・水道 | 2 | 528 | -526 |
| 商業 | 4,389 | 5,009 | -620 |
| 金融・保険 | 109 | 561 | -452 |
| 不動産 | 0 | 145 | -145 |
| 運輸・郵便 | 1,607 | 1,547 | 60 |
| 情報通信 | 520 | 1,642 | -1,122 |
| 公務 | 0 | 0 | 0 |
| サービス | 635 | 2,139 | -1,504 |
| 分類不明 | 0 | 1 | -1 |
| （ 再掲） | 第1次産業 | 2,314 | 1,194 | 1,120 |
| 第2次産業 | 12,597 | 18,452 | -5,855 |
| 第3次産業 | 7,259 | 11,044 | -3,785 |

(注)40 部門表による。製造業計には事務用品を含む。

移輸出率（生産額に占める移輸出額の割合）と移輸入率（県内需要に占める移輸入の割合）の大小によって、各産業を４つのグループに分類したのが次頁の図である。

（Ⅰ）県際流通型財（移輸出率、移輸入率とも 50％以上）

このグループは、生産したものの多くを県外へ移輸出し、県内で需要するものは、県外から移輸入するといったもので、例えば電気機械のように、本県では部品を製造、移出し、完成品を移入するというものや、同産業でも違った品目を移出入するというものである。

本県では飲食料品、パルプ・紙・木製品、電子部品、鉄鋼、非鉄金属などが属している。

（Ⅱ）高度移輸出型財（移輸出率が 50％以上、移輸入率が 50％以下）

県内需要をある程度満たしながら、移輸出のウェイトが高いものであり、本県では農業が属している。

（Ⅲ）県内自給型財（移輸出率、移輸入率とも 50％以下）

移輸出、移輸入に適さないサービスや属地性の強いものが多く、本県では第３次産業、建設、畜産、林業が属している。

（Ⅳ）移輸入依存型財（移輸出率が 50％以下、移輸入率が 50％以上）

県内需要の多くを移輸入でまかなっているもので、本県では窯業・土石製品、石油・石炭製品、その他の製造工業製品が属している。

（Ⅰ）県際流通型財、（Ⅱ）高度移輸出型財、（Ⅲ）県内自給型財、（Ⅳ）移輸入依存型財のそ れぞれに分類される産業の生産額の合計をみると、（Ⅰ）が 2 兆 2,353 億円（構成比 29.6％）、（Ⅱ）

が 2,329 億円（同 3.1％）、（Ⅲ）が 5 兆 74 億円（同 66.3％）、（Ⅳ）が 761 億円（同 1.0％）となり、構成比を平成 17 年と比較すると、（Ｉ）が 12.2 ポイントの上昇、（Ⅱ）が 0.1 ポイントの低下、（Ⅲ）が 11.5 ポイントの低下、（Ⅳ）が 0.6 ポイントの低下となった。

図２－７ 県際関係からみた産業の類型

100.0

|  |  |
| --- | --- |
| （Ⅱ）高度移輸出型財農業 | 業務用機械（Ⅰ）県際流通型財 鉄鋼 輸送機繊維製品電子部品 電気機械漁業 化学製品はん用機パルプ・紙・木製品生産用機械飲食料品商業 鉱業金属製品 |
| 運輸・郵便林業 畜産情報通信不動産 金融・保険サービス （Ⅲ）県内自給型財 | プラスチック・ゴム窯業・土石製品その他の製造工業製品石油・石炭製品（Ⅳ）移輸入依存型財 |

情報・通信機器非鉄金属

械

械

## 移輸

50.0

## 出

率

公務

建設 電力・ガス・水道

0.0

0.0

50.0 100.0

## 移 輸 入 率

図２－８ 県際関係からみた産業の類型別生産額構成比の推移

平成17年

3.1

3.2

1.6

 (Ⅲ)県内自給型財

 17.4

(Ⅳ)移輸入依存型財

(Ⅰ)県際流通型財

(Ⅱ)高度移輸出型財

1.0

66.3

29.6

77.8

平成23年

0% 20% 40% 60% 80% 100%

(Ⅰ)県際流通型財 (Ⅱ)高度移輸出型財 (Ⅲ)県内自給型財 (Ⅳ)移輸入依存型財